

根室市港湾整備事業経営戦略

団 体 名 : 根室市

事 業 名 : 港湾整備事業

策 定 日 : 令和 6 年 9 月

計 画 期 間 : 令和 7 年度 ～ 令和 16 年度

※複数の港湾を有する事業にあっては、港湾ごとの状況が分かるよう記載すること。

1. 事業概要

(1) 事業形態

法適(全部適用・一部適用)の区分	法適(一部適用)	事業開始年月日	昭和44年4月1日
職員数	4人	港湾区分(重要港湾等)	重要港湾
民間活用状況	ア 民間委託	-	
	イ 指定管理者制度	-	
	ウ PPP・PFI	-	

(2) 使用料体系

※施設区分の中で複数の使用料体系がある場合には、それぞれの内容を分けて記載すること。

別紙1 参照

※各項目の単位を明記すること

(3) 現在の経営状況

年間取扱貨物量 ※過去3年度分を記載	R5 563,097トン	R4 645,762トン	R3 687,766トン
年間船舶乗降旅客数 ※過去3年度分を記載	R5 0人	R4 0人	R3 0人
年間使用料収入額 (税込み) ※過去3年度分を記載	R5 151,571千円	R4 156,794千円	R3 151,862千円
経常収支比率 (又は収益的収支比率) ※過去3年度分を記載	R5 122.27%	R4 133.72%	R3 133.09%
経費回収率 ※過去3年度分を記載	R5 109.65%	R4 117.31%	R3 121.21%
他会計補助金比率 ※過去3年度分を記載	R5 0%	R4 0%	R3 0%
有形固定資産減価償却率 ※過去3年度分を記載	R5 8.25%	R4 7.72%	R3 7.79%
企業債残高対 料金収入比率 ※過去3年度分を記載	R5 3.47%	R4 6.02%	R3 8.93%
【上記の収益、資産等の状況等を踏まえた現在の経営状況の分析】 過去3ヶ年の単年度純利益は平均すると約36,706千円で推移しており、健全な会計運営を行っている。			

2. 将来の事業環境

(1) 取扱貨物量等の見通し

年間貨物取扱量については、当港が国内有数の水産基地としての特性を有していることを踏まえ、近年の厳しい漁業環境を反映した令和5年度の貨物取扱量を基本とし近年の増減率を加味し推移していくものとして計上した。

(2) 使用料収入の見通し

使用料収入については、2(1)に記載のとおり、近年の漁業環境を踏まえ、漁獲物陸揚使用料をはじめ、大幅な伸びを見込まず、経年的な減少を加味し推移していくものとして計上した。

(3) 施設の見通し

現状維持を基本とし、保全工事等による施設の延命化を図る。

3. 経営の基本方針

かつて自主的に導入した「根室市港湾整備事業会計再生プラン」の基本理念である「厳しい収益の見立てと徹底した費用の抑制」の継承や、「身の丈にあった会計運営」の堅持により確保された内部留保資金及び現金資金を活用し、老朽化した港湾施設の効果的な維持補修に意を置くとともに、単年度平均122万円程度の純利益を確保し、企業債に依存しない経営を行う。

4. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画)：別紙のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

① 収支計画のうち投資についての説明

【主な投資の内容】

② 収支計画のうち財源についての説明

財源については営業収益を基本に賄うことを想定しており、現時点においては新たな企業債の借り入れや、一般会計からの繰入等については考えていない。
--

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

経費については、施設の老朽化に応じた、保存工事や維持補修経費を定額で計上した。

5. 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

経営戦略の事後検証、 改定等に関する事項	毎年度策定している長期財政収支試算(10ヶ年計画)を基本とすることから、年1回程度の時点検証を行い、整合性を図るとともに、新たな経営健全化や財源対策に係る取り組みが具体化した場合、さらに修正等を加える。
-------------------------	---

